

活動の評価【有形効果】 R8.3月分処方数集計

備北地区・地域フォーミュラリ

No.1: (高血圧症)アンギオテンシンⅡ受容体拮抗薬(ARB)
No.2: 経口酸分泌抑制剤(PPI・P-CAB)
No.3: HMG-CoA還元酵素阻害剤(スタチン) } 2023(令和5)年9月～

No.4: α -グルコシダーゼ阻害薬(2型糖尿病用)
No.5: 第2世代抗ヒスタミン薬
No.6: 消炎・鎮痛剤(内用剤) } 2023(令和5)年12月～

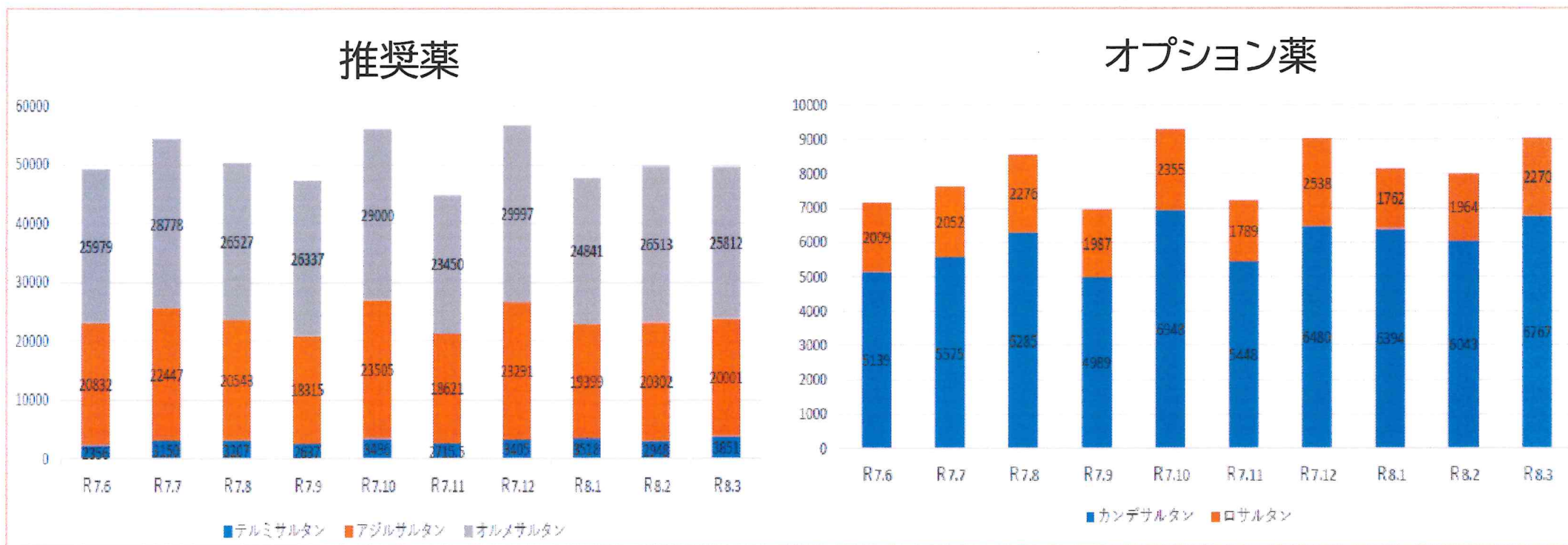
No.7: 口腔領域小手術後の抗菌薬
No.8: 経口ビスホスホネート製剤
No.9: ヘルペス治療薬 } 2024(令和6)年6月～

No.10: (高血圧症)ジヒドロピリジン系カルシウム拮抗薬
No.11: グリニド系糖尿病用薬
No.12: 多価不飽和脂肪酸製剤
No.13: 尿酸生成抑制薬 } 2025(令和7)年4月～

ARB アンギオテンシンⅡ受容体拮抗薬 処方数比較(4病院)

ARB	各病院コメント
三次中央	引き続き、アジルサルタン20mgとオルメサルタン20mgがほぼ同量でトップでした。テルミサルタン40mgが微増していました。
三次地区医療センター	オルメサルタンの使用量が約1/4に減少し推奨薬の比率が低下しています。
庄原赤十字病院	現在は安定的に処方されている
西城市民病院	オルメサルタンの使用量が前月よりも減ってはいたものの、アジルサルタンの使用量は年間で一番多く使用されていて全体では使用量に変化なし。(稼働日が2月よりも多いため)

2026年3月処方数集計 (4病院)

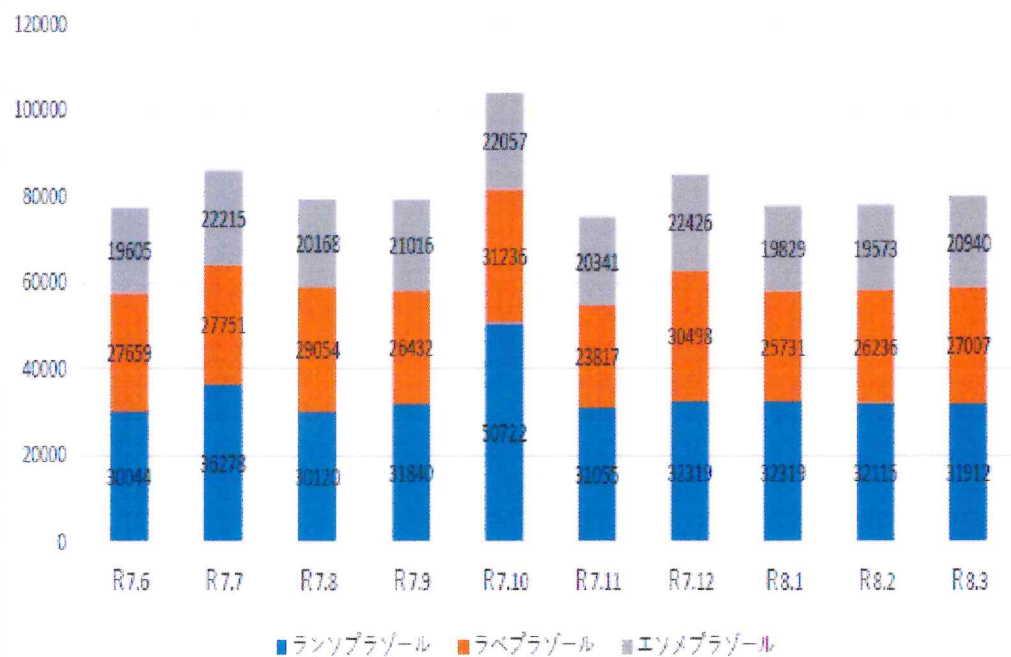


PPI,P-CAB 経口分泌抑制剤 処方数推移(4病院)

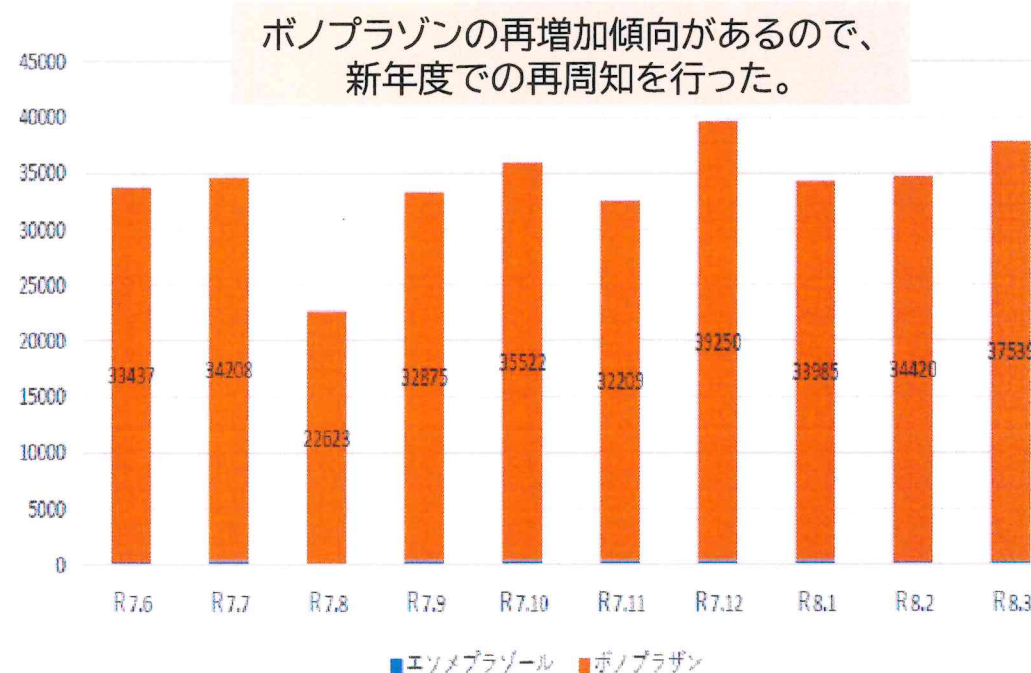
2026年3月処方数集計(4病院)

PPI, P-CAB	各病院コメント
三次中央	引き続き、ランソプラゾール15mgが断トツでトップでした。 その他の薬剤は全て横ばいでした。
三次地区医療センター	推奨薬の総数は前月とほぼ変わりないですが、 ボノプラザンが減少したため推奨薬の比率はやや上昇しています。
庄原赤十字病院	現在は安定的に処方されている
西城市民病院	エソメプラゾールの使用量は直近3ヶ月で若干減少しているものの ランソプラゾール及びラベプラゾールは前月よりも若干ではあるが増加となっている

推奨薬



オプション薬



地域フォーミュラリに明記している内容「ボノプラザンの治療は限定的」を医局会で周知

※**ボノプラザン**は、消化性潰瘍診断ガイドライン2020でヘリコバクター・ピロリの一次除菌治療では、その除菌率の高さ、治療効果(制酸効果)の高さから使用が推奨されている。
また胃食道逆流症(GERD)診療ガイドライン2021では重症逆流性食道炎の初期治療として使用することを提案されているが、**限定的な患者への使用**と考えられ、薬価も他剤と比較して高額であることから推奨薬とせずオプションとした。また、ボノプラザンは英国および米国で販売されていない。

薬価比較

一般名	ランソプラゾール		ラベプラゾール		エソメプラゾール		ボノプラザン
製品名	GE	タケプロン (先発)	GE	パリエット (先発)	GE	ネキシウム (先発)	タケキャブ (先発)
1日薬価 (標準 投与量)	20.8~ 36.0円 (30mg)	39.7円 (30mg)	20.3~ 32.3円 (10mg)	43.6円 (10mg)	41.8円 (20mg)	CAP:69.7円 顆粒:93.9円 (20mg)	144.8円 (20mg)

スタチン HMG-CoA還元酵素阻害剤処方数比較(4病院)

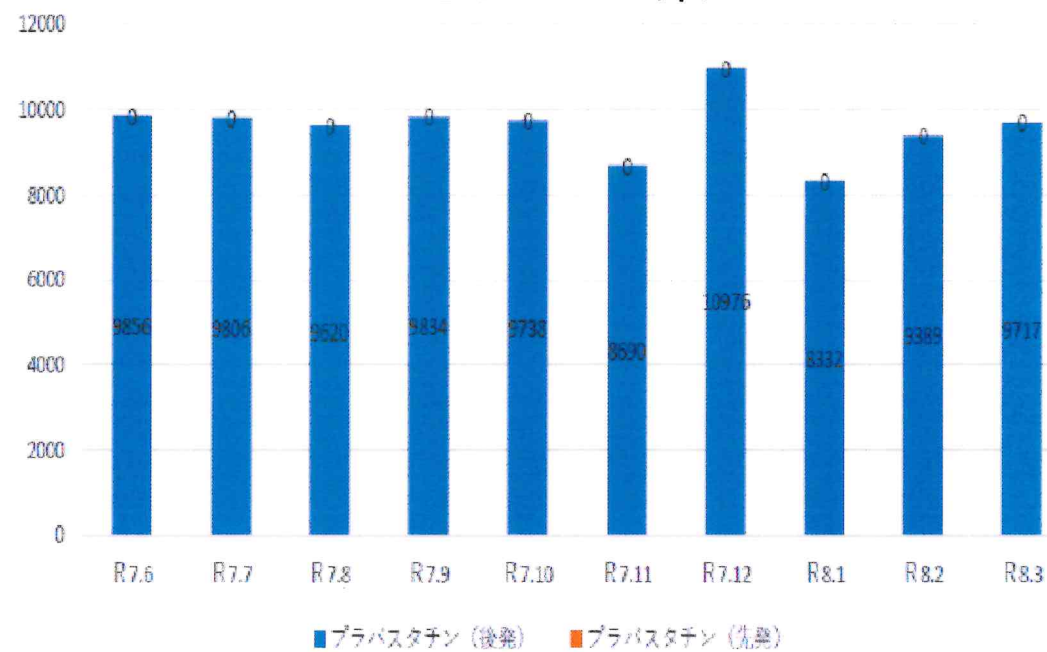
2026年3月処方数集計 (4病院)

スタチン	各病院コメント
三次中央	ロスバスタチン2.5mgが上昇傾向にあり、アトルバスタチン10mgとほぼ同量でした。
三次地区医療センター	ロスバスタチン・アトルバスタチンが増加、プラバスタチンが半減し推奨薬の比率は上昇しています。
庄原赤十字病院	現在は安定的に処方されている
西城市民病院	使用量は年間を通して多い月となっている

推奨薬



オプション薬

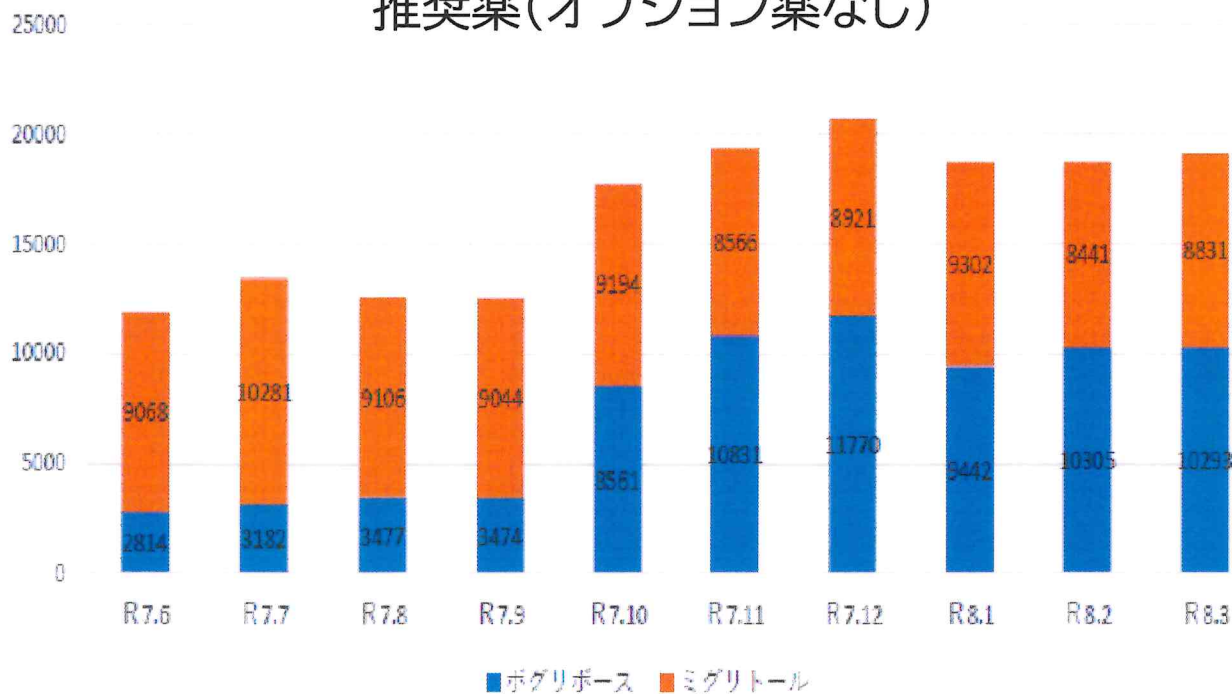


α-グルコシダーゼ阻害薬 (2型糖尿病)処方数(4病院)

2026年3月処方数集計 (4病院)

α-GI	各病院コメント
三次中央	全体的に横ばいでした。
三次地区医療センター	ボグリボース、ミグリトールともに減少しています。特にミグリトールは処方例が少なくなっています。
庄原赤十字病院	現在は安定的に処方されている。
西城市民病院	ボグリボース及びミグリトールはいずれも使用量が多く増加に転じている。

推奨薬(オプション薬なし)



◆その他の薬剤:アカルボースについて

アカルボースは、心血管イベントの抑制効果を検討した試験はあるが、副次的な評価であり、エビデンスレベルとしては低い¹⁾。また、耐糖能異常患者において2型糖尿病の発症抑制が示されているが、日本では適応がない。なお、2022年5月に先発医薬品であるグルコバイ錠、同OD錠の販売中止がアナウンスされた。現在は後発医薬品のみが流通しているが、国内における処方量は極端に少なく、推奨薬とはならない。

1) Jean-Louis Chiasson, et al. Acarbose treatment and the risk of cardiovascular disease and hypertension in patients with impaired glucose tolerance: the STOP-NIDDM trial. JAMA. 2003 Jul 23; 290(4):486-94. PMID: 12876091

第2世代抗ヒスタミン薬処方数推移(4病院)

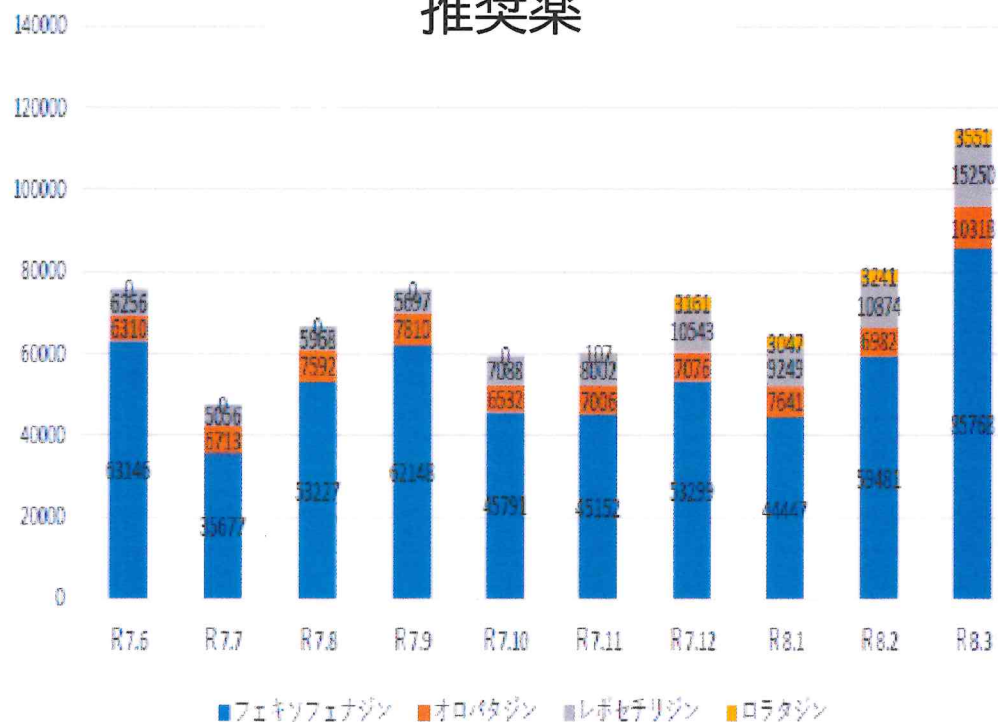
処方数減少(変動)は季節性要因によるものがある。

2-4月は、花粉症による全体の処方数増加がある。
 ビラスチンの宣伝攻勢は強いので、処方数の経過を注視します。

2026年3月処方数集計 (4病院)

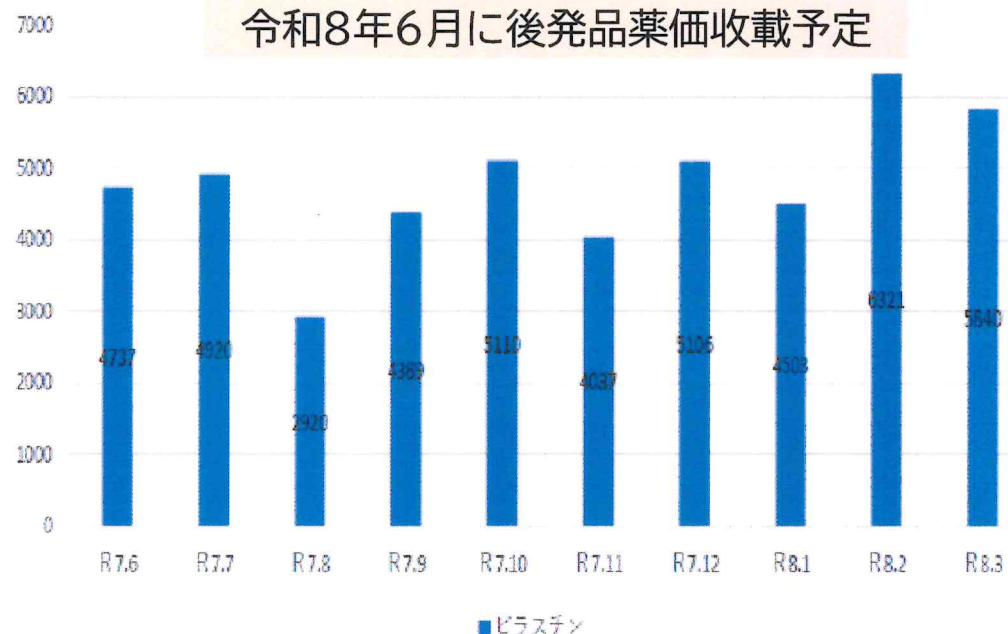
抗ヒ薬	各病院コメント
三次中央	季節性もありフェキソフェナジンDS・錠の処方量が上昇していました。
三次地区医療センター	フェキソフェナジン増加、オロパタジン・レボセチリジンは減少、オプション薬であるビラスチンが大きく増加しています。ビラスチンは大半が外来処方です。
庄原赤十字病院	時期的要素もあり、先月よりも処方数が増加していた
西城市民病院	オロパタジンの使用量は減少しているもののフェキソフェナジン及びレボセチリジンの使用量は年間を通して3月は多く使用されている。(対象患者が多かったためと思われる)

推奨薬



オプション薬

令和8年6月に後発品薬価収載予定



内用 消炎・鎮痛剤の処方推移(4病院) 感染症動向に影響を受けやすい

2026年3月処方数集計(4病院)

消炎鎮痛薬	各病院コメント
三次中央	アセトアミノフェン細粒は昨年11月ごろより急増しています。
三次地区医療センター	先月と比較し大きな変動はありませんでした。
庄原赤十字病院	現在は安定的に処方されている。
西城市民病院	全体を通じて使用量は多くはないが、アセトアミノフェン500mgの使用量は増加している。

推奨薬



オプション薬

地域の特性から現在処方数推移の対象としていない

◆イブプロフェン、ナプロキセンは多くのガイドラインで使用が推奨されてはいるが、当地域での使用量は今のところ少ない。頻用されるロキソプロフェン、セレコキシブの流通量からみれば、イブプロフェンは100分の1程度、ナプロキセン(ナイキサン)は400~500分の1である。

◆ジクロフェナクナトリウムは多くのガイドラインで推奨されている。COX-2選択性はセレコキシブと同程度と報告されている。坐剤、外用剤など複数の剤形を有するが、消化器系の副作用、心血管系有害事象に注意が必要である。また、ジクロフェナクナトリウムには徐放製剤(カプセル)があり、その用法・用量には留意が必要になる。通常、成人にはジクロフェナクナトリウムとして1回37.5mgを1日2回食後に経口投与する。

抜歯時・口腔領域小手術後の 経口抗菌薬処方推移(4病院)

令和6年6月掲載の地域フォーミュラリであり、
経過(推移)を見ている。
感染症動向が処方の影響している

歯口腔術後抗菌薬	各病院コメント
三次中央	当院ではアモキシシリン(推奨薬)とクラリスロマイシン(オプション薬)の処方量は3:1の割合です。
三次地区医療センター	該当処方なし
庄原赤十字病院	対象薬剤の採用がない
西城市民病院	使用なし (オプション薬のクラリスロマイシン200mg(錠)の使用量は多かった(130錠/月))

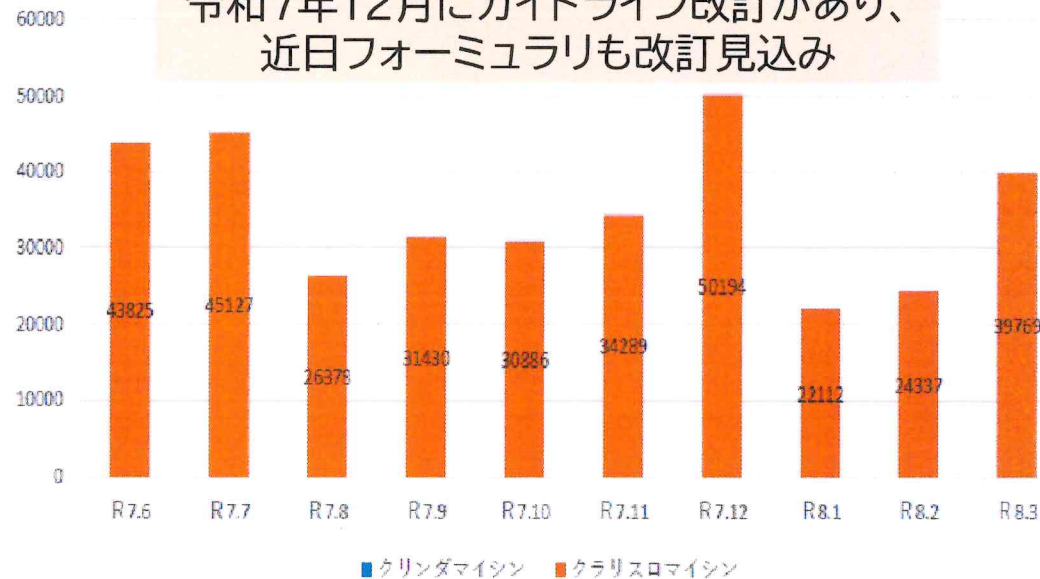
2026年3月処方数集計(4病院)

推奨薬



オプション薬

令和7年12月にガイドライン改訂があり、
近日フォーミュラリも改訂見込み



経口ビスホスホネート製剤 処方数推移(4病院)

令和6年6月収載の地域フォーミュラリであり、経過(推移)を見ている

ビスホスネート製剤	各病院コメント
三次中央	当院ではリセドロン酸(推奨薬)とミノドロン酸(オプション薬)の処方量は1:4の割合です。
三次地区医療センター	アレンドロン、ミノドロンともに半減です。対象患者が減少しています。
庄原赤十字病院	対象薬剤の採用がない
西城市民病院	使用量に変化なし

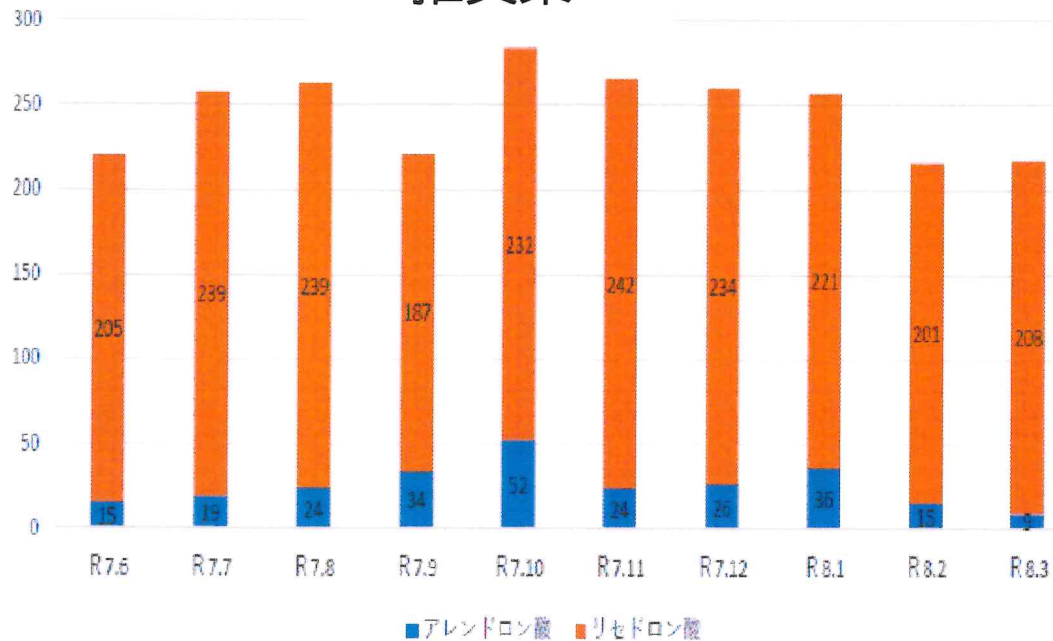
2026年3月処方数集計(4病院)

オプション:ミノドロン酸

ミノドロン酸は推奨薬であるアレンドロン酸、リセドロン酸と比較して「骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2015年版」では有効性の評価は他剤より劣る。

ミノドロン酸は日本人骨粗鬆症患者を対象として、かつ、日本で承認された用量で骨抑制効果が検証された唯一のビスホスホネート系薬剤であると評価されている。すでに後発品は発売されているものの、推奨薬より薬価が高いことから、オプションとしている。

推奨薬



オプション薬



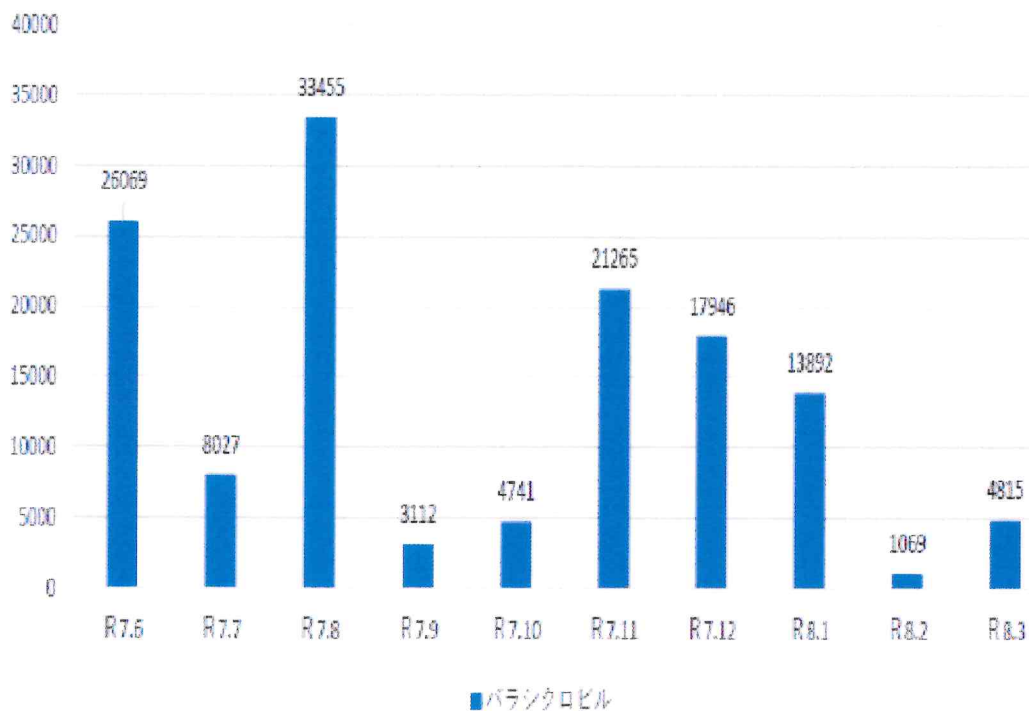
ヘルペス治療薬 フォーミュラリ (成人)処方数推移(4病院)

令和6年6月収載開始の地域フォーミュラリ

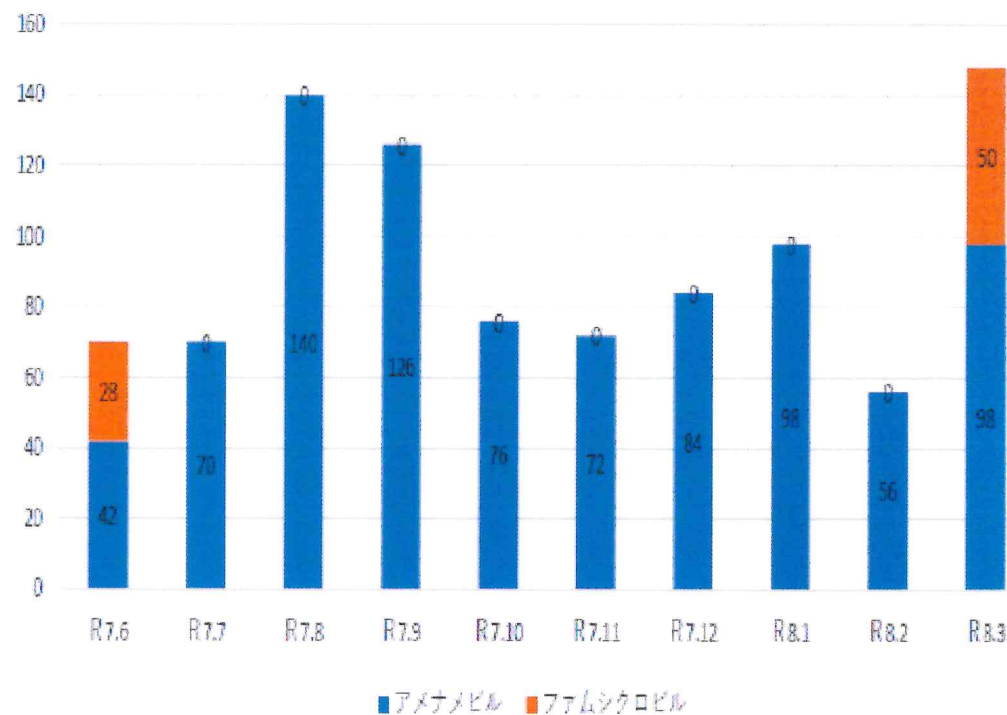
2026年3月処方数集計(4病院)

ヘルペス薬	各病院コメント
三次中央	引き続き、全体的に減少していました。
三次地区医療センター	処方なし
庄原赤十字病院	現在は安定的に処方されている
西城市民病院	推奨薬の使用なし(オプション薬のファムシクロビル250mg(錠)が50錠使用されている)

推奨薬



オプション薬



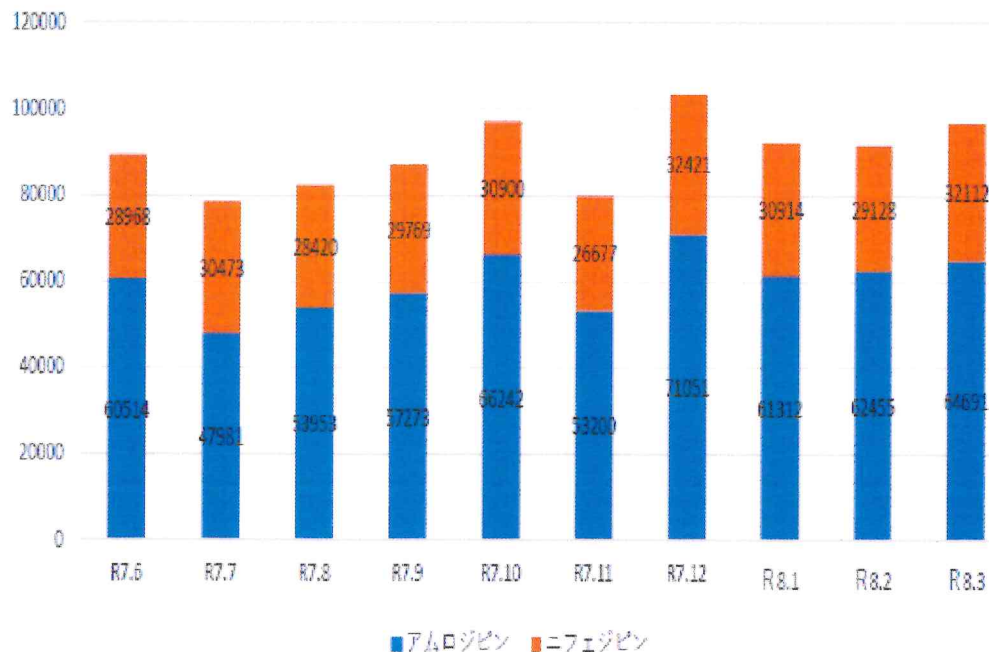
No10. ジヒドロピリジン系Ca拮抗薬 (高血圧症)処方数推移(4病院)

- 令和7年4月10日策定の地域フォーミュラリ

2026年3月処方数集計(4病院)

Ca拮抗薬	各病院コメント
三次中央	引き続き、1位はアムロジピン5mg、2位はニフェジピン20mgでした。
三次地区医療センター	ベニジピンのみやや増加しましたが、全体的に使用量が減少しています。
庄原赤十字病院	現在は安定的に処方されている
西城市民病院	いずれも若干使用量が増えている。 (オプション薬のアゼルニジピン16mg(錠)は使用量が若干多かった)

推奨薬



オプション薬



NO11. グリニド系糖尿病用薬 処方数推移(4病院)

- 令和7年4月10日策定の地域フォーミュラリ

グリニド系糖尿病薬	各病院コメント
三次中央	断トツ1位はレバグリニド0.25mgでした。 オプション薬(ミチグリニド10mg)と比べると10倍以上差があります。
三次地区医療センター	先月よりも減少。 件数が少なく月変動が大きいですが、長期的には減少傾向にあります。
庄原赤十字病院	現在は安定的に処方されている
西城市民病院	推奨薬使用なし。(オプション薬ミチグリニドの使用量に変化なし)

2026年3月処方数集計(4病院)



NO12. 多価不飽和脂肪酸製剤 処方数推移(4病院)

- 令和7年4月10日策定の地域フォーミュラリ

2026年3月処方数集計(4病院)

多価不飽和脂肪酸製剤	各病院コメント
三次中央	全体的に横ばいでした。
三次地区医療センター	先月と比較し大きな変動はありません。 処方例が少なく傾向は不明です。
庄原赤十字病院	現在は安定的に処方されている
西城市民病院	使用量に変化なし

推奨薬



オプション薬



NO13. 尿酸生成抑制薬 処方数推移(4病院)

- 令和7年4月10日策定の地域フォーミュラリ

2026年3月処方数集計 (4病院)

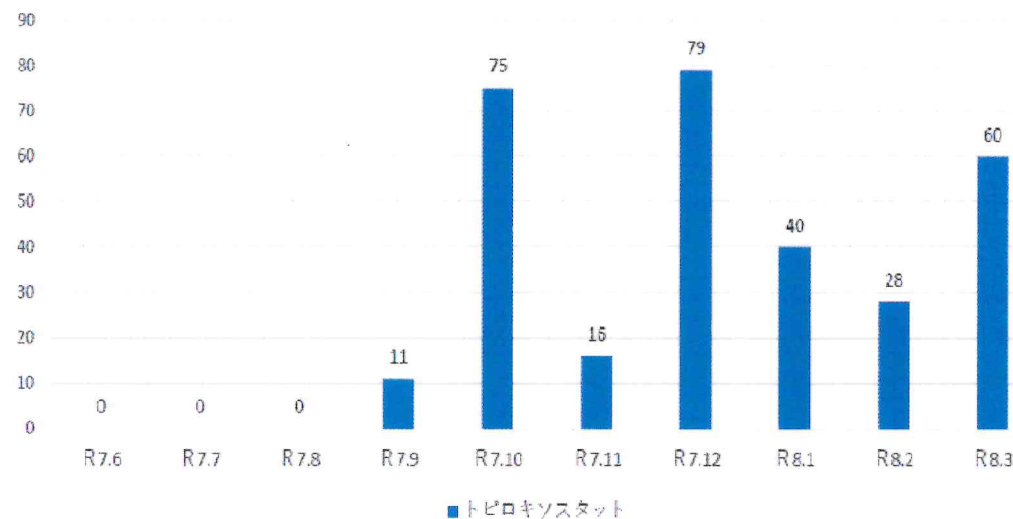
尿酸生成抑制薬	各病院コメント
三次中央	フェブキソスタット10mg・20mgが上位を占めていました。
三次地区医療センター	アロプリノール、フェブキソスタットとも増加。 特にアロプリノールは大きく増加していました。
庄原赤十字病院	現在は安定的に処方されている
西城市民病院	使用量に変化なし

推奨薬



オプション薬

オプション薬としてのトピロキソスタットは、薬価が3倍高い先発品であることから推奨されないが、1日2回の服用であり尿酸値の日内変動を小さくしたいと判断した患者にオプションとして使用する。



ARB	各病院コメント
三次中央	引き続き、アジルサルタン20mgとオルメサルタン20mgがほぼ同量でトップでした。テルミサルタン40mgが微増していました。
三次地区医療センター	オルメサルタンの使用量が約1/4に減少し推奨薬の比率が低下しています。
庄原赤十字病院	現在は安定的に処方されている
西城市民病院	オルメサルタンの使用量が前月よりも減ってはいたものの、アジルサルタンの使用量は年間で一番多く使用されていて全体では使用量に変化なし。(稼働日が2月よりも多いため)
PPI, P-CAB	各病院コメント
三次中央	引き続き、ランソプラゾール15mgが断トツでトップでした。その他の薬剤は全て横ばいでした。
三次地区医療センター	推奨薬の総数は前月とほぼ変わりないですが、ポノプラザンが減少したため推奨薬の比率はやや上昇しています。
庄原赤十字病院	現在は安定的に処方されている
西城市民病院	エソメプラゾールの使用量は直近3ヶ月で若干減少しているもののランソプラゾール及びラベプラゾールは前月よりも若干ではあるが増加となっている
スタチン	各病院コメント
三次中央	ロスバスタチン2.5mgが上昇傾向にあり、アトルバスタチン10mgとほぼ同量でした。
三次地区医療センター	ロスバスタチン・アトルバスタチンが増加、プラバスタチンが半減し推奨薬の比率は上昇しています。
庄原赤十字病院	現在は安定的に処方されている
西城市民病院	使用量は年間を通して多い月となっている
α -GI	各病院コメント
三次中央	全体的に横ばいでした。
三次地区医療センター	ボグリボース、ミグリトールともに減少しています。特にミグリトールは処方例が少なくなっています。
庄原赤十字病院	現在は安定的に処方されている
西城市民病院	ボグリボース及びミグリトールはいずれも使用量が多く増加に転じている
抗ヒ薬	各病院コメント
三次中央	季節性もありフェキソフェナジンDS・錠の処方量が上昇していました。
三次地区医療センター	フェキソフェナジン増加、オロパタジン・レボセチリジンは減少、オプシオン薬であるピラスチンが大きく増加しています。ピラスチンは大半が外来処方です。
庄原赤十字病院	時期的要素もあり、先月よりも処方数が増加していた
西城市民病院	オロパタジンの使用量は減少しているもののフェキソフェナジン及びレボセチリジンの使用量は年間を通して3月は多く使用されている。(対象患者が多かったためと思われる)
消炎鎮痛薬	各病院コメント
三次中央	アセトアミノフェン細粒は昨年11月ごろより急増しています。
三次地区医療センター	先月と比較し大きな変動はありませんでした。
庄原赤十字病院	現在は安定的に処方されている
西城市民病院	全体を通じて使用量は多くはないが、アセトアミノフェン500mgの使用量は増加している
歯口腔術後抗菌薬	各病院コメント
三次中央	当院ではアモキシシリン(推奨薬)とクラリスロマイシン(オプシオン薬)の処方量は3:1の割合です。
三次地区医療センター	該当処方なし
庄原赤十字病院	対象薬剤の採用がない
西城市民病院	使用なし(オプシオン薬のクラリスロマイシン200mg(錠)の使用量は多かった(130錠/月))
ビスホスネート製剤	各病院コメント
三次中央	当院ではリセドロン酸(推奨薬)とミノドロン酸(オプシオン薬)の処方量は1:4の割合です。
三次地区医療センター	アレンドロン、ミノドロンともに半減です。対象患者が減少しています。
庄原赤十字病院	対象薬剤の採用がない
西城市民病院	使用量に変化なし

備北地区・地域フォーミュラ薬剤 数量集計での各病院コメント

令和 8 年 3月分(2)

ヘルパス薬	各病院コメント
三次中央	引き続き、全体的に減少していました。
三次地区医療センター	処方なし
庄原赤十字病院	現在は安定的に処方されている
西城市民病院	推奨薬の使用なし(オプション薬のファムシクロビル250mg(錠)が50錠使用されている)
Ca拮抗薬	各病院コメント
三次中央	引き続き、1位はアムロジピン5mg、2位はニフェジピン20mgでした。
三次地区医療センター	ベニジピンのみやや増加しましたが、全体的に使用量が減少しています。
庄原赤十字病院	現在は安定的に処方されている
西城市民病院	いずれも若干使用量が増えている。 (オプション薬のアゼルニジピン16mg(錠)は使用量が若干多かった)
グリニド系糖尿病薬	各病院コメント
三次中央	断トツ1位はレバグリニド0.25mgでした。 オプション薬(ミチグリニド10mg)と比べると10倍以上差があります。
三次地区医療センター	先月よりも減少。 件数が少なく月変動が大きいです、長期的には減少傾向にあります。
庄原赤十字病院	現在は安定的に処方されている
西城市民病院	推奨薬使用なし。(オプション薬ミオチグリニドの使用量に変化なし)
多価不飽和脂肪酸製剤	各病院コメント
三次中央	全体的に横ばいでした。
三次地区医療センター	先月と比較し大きな変動はありません。処方例が少なく傾向は不明です。
庄原赤十字病院	現在は安定的に処方されている
西城市民病院	使用量に変化なし
尿酸生成抑制薬	各病院コメント
三次中央	フェブキソスタット10mg・20mgが上位を占めていました。
三次地区医療センター	アロプリノール、フェブキソスタットとも増加。 特にアロプリノールは大きく増加していました。
庄原赤十字病院	現在は安定的に処方されている
西城市民病院	使用量に変化なし